

令和6年度中学校武道授業(なぎなた)指導法研究事業



山本由加里研究者による授業



各班に分かれてリズムなぎなたの構成を検討

令和6年度中学校武道授業(なぎなた)指導法研究事業〔主催＝日本武道館・全日本なぎなた連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕が、9月13(金)・14日(土)の2日間、香川県琴平町立琴平中学校において、研究者5名、連盟事務局1名の出席を得て実施した。

今回は、なぎなたの特性を踏まえた指導計画など、教育効果の上がる安心で安全な武道授業の指導法研究を目的に、琴平中学校の授業を視察し、振り返りや評価基準などについて検討を行った。

■1日目(9月13日)

開講式では、今浦千信^{いまうらのぶ}公益財団法人全日本なぎなた連盟常務理事と、沢登英徳^{さわとひでのり}公益財団法人日本武道館振興課主事兼課長補佐が主催者挨拶を述べ、続いて梶正司^{かじしょうじ}香川県なぎなた連盟会長、北岡隆^{きたおかたかし}琴平町立琴平中学校長が挨拶を行った。

開講式後、「指導書に沿った授業」では、第2学年(1・2組、46名男女共習)を対象に、10時間中5時間目の授業を視察した。

本時は「リズムなぎなたの動きを、タブレットを活用しながら意見を出し合い、なかまとともに協力して構成を考えることができる」を目標に、グループごとに分かれて意見を出し合った。

本校では、まず個人で考え、その後ペアで、最後にグループで考えることにつなげる「バス学習」を取り入れている。この学習は、一人で構成をすることが難しい生徒も、ペアやグループで考えることで様々な考え方に触れたり、自分の意見が言いやすくなることが目的である。

生徒たちは、タブレットを見ながら、意見を出し合い、実際に動きをつけて構成を考えるなど、主体的に学ぶ姿勢が見て取れた。

授業視察後、研究協議①として、近隣中学校から視察に来ていた2名の教員も加わり、本時の授業者である山本由加里^{やまもと ゆかり}研究者から授業全体の流れの説明があった。次に振り返りとつまづきのフォローに

ついて、話し合いを行ったところ、「子どもたちが文字で書いて発表したのが良かった」、「安全面にも配慮できていた」、「もう少しなぎなたを扱う時間があっても良かったのではないか」などといった意見が出された。

その後、リズムなぎなたの可能性について、どのように進めていけば良い授業になるか、改めて確認したところ、森田美穂^{もりた みほ}研究者から「子どもたちの助け合いを感じることができるので、リズムなぎなたは有効ではないか」といった意見や、視察者から「やってきたことの達成感が得られるので有効だと思うが、評価は難しい」といった意見があった。



■2日目(9月14日)

研究協議②として、初日に課題として挙げた、リズムなぎなたの評価基準について検討を行った。

今浦研究者から「作品としての評価だけでよいのか」、「どのような点を評価すればよいのか」といった問題提起に対し、小原^{おぐら}かおり研究者から「これが出来ていれば良いという基準を2〜3つほど具体的に文字として示す必要があるのではないか」、鈴木理香^{すずき りか}研究者から「なぎなたにこだわらない評価、例えば絶対に守らなければならないルールのようなものも必要ではないか」などの意見が出された。

これらの意見をもとに、全日本なぎなた連盟が発行した「教師用指導ノート」の発展的な指導内容(7〜10時間目)のリズムなぎなたについて、今後、具体的な指導と評価の計画例を作成することを確認し、全日程を終了した。